

平成22年度の小豆島は、小豆島観光協会データ(1月-12月)から観光客数で103.2%(プラス34,467人)の1,098千人、宿泊客数で109.8%(プラス38,377人)の428千人と前年を大きく上回る結果で推移しました。要因は、春のツアー団体で1万人、『瀬戸内国際芸術祭』期間で2万人増えた結果になっております。

ふるさと村も8月後半から10月末まで『瀬戸内国際芸術祭』では、合計で1,000名の増加となり、宿泊稼働率で35%→40%にアップいたしました。

要因は、ホームページの更新と商品開発、予約システムの変更タイミングが『瀬戸内国際芸術祭』開催と合致したことが大きかったと分析しています。

ふるさと村全体での売上は102.4%となり、内訳は一般会計(公益事業)で105.4%、特別会計(収益事業)で101.1%となりました。最終の成績は、税引き前利益で約2,000千円の黒字となりました。内訳は、一般会計でマイナス2,000千円、特別会計でプラス4,000千円です。一般会計の赤字は、宿泊予約、企画、宿直などの臨時雇用を増やしたため人件費が増え、また更新工事(宿舍外壁、イベント広場テント)の追加工事などが予算外で計上されたことが原因です。

部門別では、一般会計での宿泊料収入の伸びが大きく、次に天候に恵まれたことでプール利用料のアップ、体育施設利用料のアップなどで好調でした。特別会計は、宿泊客数と地元利用の増加で食事の伸びは好調でしたが、個人客、立ち寄り数の減少で「道の駅」売店は前年比で94.5%となりました。

また、ふるさと村の持ち味である体験による、事業収入はメインのシーカヤックは好調であったが、その他うどん教室、オーブクラフト、陶芸などが苦戦いたしました。要因は、団体利用、事前予約制などお客様ニーズにうまく合わなかったことが考えられます。

施設の改善では、去年の国民宿舍のトイレ設置に続き、今年は宿舍の外壁修繕と塗装、イベント広場のテント改修工事など利用者目線での投資ができたことなど、厳しい時代に向かい生き残りのための準備が少しずつできてきていると考えています。

以上の結果から22年度総括として、ハード(施設・景色)とソフト(接客と料理)が変わり始め、集客、売上、評判が少し良い方向性に動き出しました。

今後は、更にふるさと村の価値を高めるために商品、サービス、働き方、販売方法、などありとあらゆるものをもう一度見直し、時代の求める方向、レベルに舵をとってまいります。

ふるさと村は、世の中を明るく、元気にするための施設、設備、人材を抱えています。ポイントは遊び、学び、癒しを追及していくこと、宿泊は稼働率の向上を使命とします。物産は、仕入れチャンネルを増やし、ターゲットを地元も含めて商品研究を行います。